

鹿児島の動物 59

志布志湾の渚（砂浜）を訪れる希少野生動物

企画展「鹿児島，渚の『・・・』」では，県の西に位置する吹上浜で見られる動物を中心に紹介しましたが，全国で3番目に長い海岸線を有する鹿児島には，それぞれの渚に適応した多様な動物が生息しています。今回は，東に位置する志布志湾の砂浜で見られる動物たちの中から希少性の高いものを取りあげて紹介したいと思います。

砂浜に上陸するウミガメ

志布志湾の砂浜には，ウミガメの一種 アカウミガメが産卵のために毎年 80 頭ほど上陸します。アカウミガメは，頭部が他のウミガメより大きいのが特徴で，5月から8月ごろにかけて，約 100 個前後の卵を砂の中に産んでいきます。

ウミガメは，海に生息する数少ない爬虫類で，世界に7種しかいませんが，乱獲や環境汚染等の影響により，世界的にその数を減らしており，すべての種において，絶滅が心配されています。



アカウミガメ

繁殖のため渡来するアジサシ

アジサシはカモメの仲間です。夏になると，東南アジアやオーストラリアから海を渡り，日本の砂浜で繁殖する野鳥です。志布志湾の沿岸には，主にコアジサシとベニアジサシが5月頃飛来し，9月頃まで産卵や子育てをします。かつては，河口付近の砂浜で，営巣する姿をみることができましたが，現在では大崎町田原川の河口の営巣地でしか見ることがで

きません。特にコアジサシは，鹿児島県 2016 年レッドデータブックにおいて，絶滅危惧種 I 類（絶滅の危機に瀕している種）に分類されており，現在，有志による営巣地の保護活動が行われています。



コアジサシ

越冬のため渡来するクロツラヘラサギ

クロツラヘラサギは，トキのなかまで黒い顔を持ち，しゃもじのようなクチバシを持つ大型の水鳥です。朝鮮半島の西岸の離島や，中国遼東半島沿岸の離島で繁殖し，台湾や香港，日本などで越冬します。2019 年の段階で世界で 4000 羽程度しか生息しておらず，絶滅が心配されていましたが，2022 年の調査では 6000 羽を超えるほどに回復しつつあります。

志布志湾沿岸では，2000 年代末頃から安楽川，菱田川，田原川（大崎町），天神川（宮崎県串間町）の河口で見られるようになり，ここ数年は毎年 3～8 羽が飛来し，越冬しています。



クロツラヘラサギ